地球儀を眺めることは世界を俯瞰で捉えること

――輪島からの発信

輪島市長
坂口茂（さかぐち しげる）

輪島塗大型地球儀の意義

輪島塗は、日本を代表する伝統工芸の一つであり、堅牢（けんろう）さと優美さを兼ね備えた漆器として知られている。1977年には重要無形文化財に指定され、その技術を継承する輪島塗技術保存会が保持団体として認定された。この卓越した技術を結集し、5年の歳月をかけて制作に挑んだのが、輪島塗大型地球儀《夜の地球 Earth at Night》である。

この地球儀は、伝統工芸と世界の視点が融合した唯一無二の作品だ。漆黒の表面に、世界の夜景を構成する数え切れない光の粒を一つ一つ点彫りし、精緻な沈金技法で描かれた大陸は、まるで地球そのものが漆芸作品となったかのような美しさを放つ。国境線のないデザインは、世界を一つのつながりとして捉える視点を示唆し、私たちに俯瞰的な思考を促し、物事を大きな視野で考えることの大切さを伝えてくれる。来場者がこの地球儀を眺めることで、自国の視点を超えた広い世界観を持ち、文化や技術の交流、共生の大切さなど、様々に思いをはせていただきたい。このように、この地球儀は対立や分断を超えて他者に思いをめぐらすことの意味を輪島の片隅から世界に向けて伝える作品になるのではないだろうか。完成以来、地球儀は石川県輪島漆芸美術館で常設展示され、数々の申し入れがありながらも、外部での展示を固辞してきた。しかし、2025年大阪・関西万博という国際的な舞台でついに輪島市を飛び出し、世界に向けて公開される。この展示は、輪島塗の価値を世界に伝えるだけでなく、輪島市にとって大きな転機となるだろう。

展示への道

2024年11月20日、日本経済団体連合会（経団連）と北陸経済連合会（北経連）の関係者が輪島市を訪問し、石川県輪島漆芸美術館にも立ち寄られた。その際、経団連の十倉会長が地球儀を高く評価し、「ぜひ、大阪・関西万博に展示してほしい」との意向を示されたのである。さらに、後日、北経連の金井会長も展示の実現に向けて尽力する意欲を語られたことから、展示の可能性を模索することとなった。輪島市としても、この機会を通じて輪島塗の技術の高さと作品の魅力を世界に発信できると考え、全面的に協力させていただくことになった。

創造的復興への挑戦

令和6年能登半島地震と奥能登豪雨は、伝統産業と観光産業を基盤とする輪島市の地域経済に甚大な被害をもたらした。多くの職人が工房を失い、文化の継承にも危機が訪れた。このような中、地球儀は奇跡的ともいえるほど、ほぼ無傷な状態で残り、その存在は一層象徴的なものとなっている。また、輪島市は「創造的復興」を掲げ、単なる復旧にとどまらず、新たな視点や価値を生み出すまちづくりを目指して進んでいく。この地球儀の展示は、その象徴的な一歩であると考える。

輪島塗は、食器や家具にとどまらず、多様な形に応用できる可能性を秘めている。地球儀という新たな表現を通じて、伝統工芸の持つ未来への広がりを示すことが可能となる。また、万博を契機に、国内外の工芸・デザイン分野との協力が生まれ、新たな交流へとつながることも期待している。

写真提供：石川県輪島漆芸美術館

輪島塗大型地球儀《夜の地球 Earth at Night》

輪島から世界へ――未来への発信

この地球儀が示すのは、「世界を俯瞰する視点」である。地球儀を前にした時、私たちは一つの国や地域にとどまらず、地球全体を見渡す広い視野を持つことを促される。万博では、世界中の来場者がこの地球儀を目にし、伝統工芸の粋を知ることになるだろう。そして、地球儀を通じて、災害の記憶を風化させることなく、輪島市の復興、ひいては能登が復興に向かう姿を見届けようとする意識を、より強く持っていただけたらと思う。

万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」。世界各国から多様な文化や技術が集結する場となる。輪島塗大型地球儀は、このテーマにふさわしい存在として、文化の継承と未来への挑戦を象徴する。震災を乗り越え、新たな創造へと歩む輪島市の姿を世界へ発信することは、地域の希望となり、自然災害が多発している日本全体にとっても意義深いものとなるのではないだろうか。この地球儀は単なる展示物ではなく、芸術と技術が融合した「物語」を持つ作品である。その精緻な沈金の光の粒は、輪島市の職人たちの情熱と、未来へ向けた強い意志を象徴しており、輪島市の歴史・文化・精神を未来へとつなぐ架け橋になるものと願っている。輪島市の復興は、文化や技術の継承、新たなつながりを生み出すことによって成し遂げられ、伝統を守ることで、未来を創ることにつながると期待している。

未来への架け橋として

万博における輪島塗大型地球儀の展示は、単なる芸術作品の披露にとどまらない。この「千載一遇」の機会は、輪島市の歴史、文化、そして復興への強い意志を世界へ発信する機会だと捉えている。この地球儀に込められた職人たちの技術と情熱、そして震災を乗り越えようとする輪島市の強い思いが、多くの人々の心に響き、世界の多様性とつながりを理解するきっかけとなるだろう。

輪島市から発信されるこの地球儀が、訪れる人々に世界全体を見渡す視点を提供し、新たな未来へのヒントを生み出すことを願っている。輪島市の復興が、新たな創造へとつながるよう、伝統工芸の可能性をさらに広げ、世界へ向けた発信を続けていく。